理学療法・作業療法学科２年

授業科目名	臨床心理学
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	後期　　１単位　30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	臨床心理学
担当講師	高田　豊司　先生
実務経験	☑ 有　　□ 無　　《　　関連資格　臨床心理士　　》
授業の目的	心理アセスメント、心理面接技法など臨床心理学の基礎的知識と技能を学ぶことで、良好な対人コミュニケーション技術を習得し、臨床心理士や精神科医等、他職種との連携を図れるようになる。
授業の概要	１回　臨床心理学とは（オリエンテーション） ２回　心理アセスメントⅠ（アセスメントの種類と知的･発達のアセスメント） ３回　心理アセスメントⅡ（質問紙法） ４回　心理アセスメントⅢ（投映法） ５回　心理療法Ⅰ−精神分析的心理療法と来談者中心療法- ６回　心理療法Ⅱ-行動療法と認知行動療法− ７回　心理療法Ⅲ−その他の心理療法− ８回　ストレス・マネジメント ９回　怒りのマネジメント 10 回　ソーシャルスキル・トレーニング 11 回　発達障害の心理療法 12 回　精神障害の心理療法 13 回　相談面接の技法Ⅰ（相談環境の設定とマイクロカウンセリングの技法） 14 回　相談面接の技法Ⅱ（紙上応答訓練・ロールプレイ） 15 回　定期テスト ＊オンデマンドでの講義になることがあります。
テキスト 参考書	授業時に適宜資料を配布する。
評価の方法	定期テスト　60 点（資料、講義ノート持ち込み可） 出席　15 点、レポート　25 点
授業の形式 受講上の注意	講義による知的理解だけではなく、架空事例などを提示したり、具体的なワークを行ったりすることで体験的に理解を深められるように進める。そのため、積極的な参加を求める。

理学療法・作業療法学科２年

授業科目名	精神医学Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	後期　１単位　30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	精神医学Ⅱ
担当講師	塚原　健司
実務経験	■有　□　無　　関連資格：精神保健福祉士・公認心理士
授業の目的	・OT・PT として業務を進めていく上で必要な精神医学の理解を深める。
授業の概要	1　薬理学 2　気分障害　Ⅰ 3　気分障害　Ⅱ 4　パーソナリティ障害　Ⅰ 5　パーソナリティ障害　Ⅱ 6　摂食障害 7　神経症性障害　Ⅰ 8　神経症性障害　Ⅱ 9　発達障害　Ⅰ 10　発達障害　Ⅱ 11　不登校・知的障害 12　精神障害と生活システム 13　自殺予防 14　期末テスト対策 15　期末テスト ・学習の進度や状況によって変更することもあります。 ・適時 DVD や事例などの資料も利用して分かり易い講義になるように努力します。
テキスト 参考書	臨床につながる精神医学　渡辺雅幸　医歯薬出版 標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　精神医学　上野武治　医学書院
評価の方法	授業態度　２０％ レポート　３０％ 期末テスト　５０％
授業の形式 受講上の注意	・基本的には講義形式ですがグループワークもあります。積極的な授業への参加を期待します。

理学療法・作業療法学科２年

授業科目名	老年医学
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	後期　　１単位　30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	老年医学
担当講師	藤村　忠史
実務経験	☑ 有　　□ 無　《関連資格：理学療法士》
授業の目的	人間の誰しもに起こる老化の理解を高める。また今後のリハビリテーション分野における対象者の中心となる高齢者の特徴を理解する。さらに症候学を再学習し、若年層と比較してどのようにアプローチをすればよいのか考えることができる知識を身につける。
授業の概要	① 加齢と老化：老化と老人病の考え方 ② 加齢と老化：加齢に伴う変化　生理機能 ③ 加齢と老化：加齢に伴う変化　運動機能　精神心理面 ④ 高齢者へのアプローチ：高齢者の定義　人口動態　高齢者との接し方 ⑤ 高齢者へのアプローチ：高齢者の機能評価　退院支援 ⑥ 高齢者に特徴的な症候と疾患：老年症候群　循環器疾患 ⑦ 高齢者に特徴的な症候と疾患：呼吸器疾患　消化器疾患 ⑧ 高齢者に特徴的な症候と疾患：骨・運動器疾患　神経疾患 ⑨ 高齢者に特徴的な症候と疾患：精神疾患　内分泌疾患 ⑩ 高齢者に特徴的な症候と疾患：血液疾患・免疫疾患　腎・泌尿器疾患 ⑪ 高齢者に特徴的な症候と疾患：皮膚・口腔疾患　感染症 ⑫ 高齢者に特徴的な症候と疾患：耳鼻咽喉疾患　眼疾患 ⑬ 高齢者をとりまく環境：老年学からのアプローチ　高齢者の医療・看護・介護・福祉・保険 ⑭ 高齢者をとりまく環境：高齢者のリハビリテーション ⑮ 喀痰吸引（外部講師による）
テキスト 参考書	標準理学療法・作業療法学　専門基礎分野　老年学　第３版 医学書院
評価の方法	筆記試験（100 点満点）で成績を評価する。
授業の形式 受講上の注意	座学形式

理学療法学科・作業療法学科２年

授業科目名	地域共生支援論
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	後期、１単位、30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">地域共生支援論</td></tr>
<tr><td>担当講師</td><td colspan="2">渡部　静</td></tr>
<tr><td>実務経験</td><td colspan="2">☑　有　　□　無　《関連資格：作業療法士》</td></tr>
<tr><td>授業の目的</td><td colspan="2">①救命処置に関する知識と技術を身につけることができる
②地域包括ケアシステムおよび地域共生社会の理解ができる</td></tr>
<tr><td rowspan="4">授業の概要
到達目標</td><td>第 1-3 回
外部講師
WEB 講習</td><td>概要：緊急時に命を救うための知識と技術を身につける
目標：
・普通救命講習修了
・命の危機に直面した際に、迅速かつ的確に対応できる力を養う
・AED の使用を含めた成人に対する心肺蘇生法、止血法・異物除去法などについて、実技を通じて修得する
・緊急時に冷静に判断し、周囲と協力して行動できるようになる</td></tr>
<tr><td>第 4-13 回
渡部
外部講師</td><td>概要：地域共生社会に向けたリハビリテーション専門職の役割を学ぶ
目標：
・現代社会の動向と、それに対応するための地域共生社会、地域包括ケアシステム、地域リハビリテーションの概念を理解できる。
・地域共生社会における理学療法士・作業療法士の役割と多職種連携の重要性を理解できる。</td></tr>
<tr><td>第 14 回
外部講師</td><td>概要：地域での認知症者の支援について学ぶ
目標：・認知症サポーターになる
・チームオレンジについて概要を説明できる</td></tr>
<tr><td>第 15 回</td><td>筆記試験</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="2">なし（適宜資料を配布する）</td></tr>
<tr><td>評価の方法</td><td colspan="2">・普通救命講習修了、認知症サポーター講座修了：各 5 点
・提出物（20 点）、発表（20 点）、筆記試験（50 点）　6 割以上で合格</td></tr>
<tr><td>授業の形式
受講上の注意</td><td colspan="2">座学、実技、グループワーク
※授業概要については、順番が前後する可能性がある。</td></tr>
</table>

理学療法学科・作業療法学科２年

授業科目名	保健医療福祉制度論
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	後期　１単位　30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	保健医療福祉制度論
担当講師	岩崎　寛広
実務経験	☑ 有　　☐ 無　　《　関連資格　社会福祉士　》
授業の目的	現在施行されている制度について理解する
授業の概要	１．オリエンテーション ２．社会保障制度の歴史、病院の種類① ３．病院の種類②、医療保険制度① ４．医療保険制度② ５．生活保護制度について ６．年金制度について① ７．年金制度について②、介護保険制度について① ８．介護保険制度について② ９．退院支援について、グループワーク １０．障害者制度について １１．障害者サービスについて １２．家庭・子どもの制度について １３．虐待防止法について、自然災害時の制度 １４．補足　2025 年問題など
テキスト 参考書	資料配布
評価の方法	定期試験
授業の形式 受講上の注意	講義

理学療法学科２年

授業科目名	基礎理学療法
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期　１単位　30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	基礎理学療法
担当講師	橋本　宜昭、西口　皓喜
実務経験	☑ 有　　□ 無　　《　関連資格　理学療法士　》
授業の目的	代表的疾患の障害像を理解し、それに対する問題点、ゴール、プログラムを立案することができるよう、モデルケースをもとに学習していく
授業の概要	代表的整形外科疾患、脳血管障害、パーキンソン病の３症例のケースレポートの ①疾患の理解 ②必要な評価の選出とその内容の理解 ③問題点抽出の意味と理由 ④ゴールの立案の手順 ⑤プログラムの立案の根拠 などを中心に読みほどいていく ③～⑤をもとに統合と解釈の概念を理解する ケースレポートを読んでその内容を理解できるように検討を重ねる
テキスト 参考書	レジュメ・レポート提出
評価の方法	授業態度 レポート提出
授業の形式 受講上の注意	講義及びグループワーク 積極的に発言すること 下調べをしっかりすること

理学療法学科２年

授業科目名	臨床運動学
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期　１単位　30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	臨床運動学
担当講師	橋本　宜昭・西口皓喜
実務経験	☑ 有　　□ 無　　《　関連資格　理学療法士　》
授業の目的	方向目標 　障害を有する対象者の姿勢や歩行について理解する 到達目標 ・歩行動作の各相を説明できる ・歩行動作における逸脱動作と、その原因となる機能障害を予測できる ・疾患特有の姿勢・動作と機能障害との関係を説明できる ・歩行動作の逸脱動作を見つけて記載できる
授業の概要	・歩行動作（復習） 　歩行動作の各相 　歩行動作における関節運動 ・歩行動作の力学的解釈 　歩行時の身体重心移動 　歩行時の床反力 　歩行時の筋活動 ・歩行動作における逸脱動作 　股関節・膝関節・足関節の関節可動域制限と逸脱動作 　股関節・膝関節・足関節の筋力低下と逸脱動作 ・片麻痺を有する患者でみられる逸脱動作 ・パーキンソニズムの姿勢・動作の特徴と分析（西口担当） ・運動失調の姿勢・動作の特徴と分析（西口担当）
テキスト 参考書	実践！動作分析 第２版　医歯薬出版
評価の方法	レポート課題（動作観察）、小テスト
授業の形式 受講上の注意	座学及び実技

理学療法学科　２年

授業科目名	理学療法演習Ⅱ
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期　　１単位　　３０時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	理学療法演習Ⅱ
担当講師	理学療法学科教員
実務経験	あり　関連資格　理学療法士
授業の目的	一般目標 ・理学療法プロセスを再確認すると共に理解を深める。 ・評価実習・臨床実習で必要な評価の理解と技術の向上を目指す。 ・対象者への検査を実施する。 ・実習遂行に必要な最低限 の知識の会得を目指す。 行動目標 ・血圧・脈拍の測定が実施できる ・形態測定が実施できる ・ROM(上肢・下肢・体幹)が実施できる ・評価の目的を理解し、結果について解釈できる
授業の概要	・１年次に学習した評価における検査・測定の基本的な技術を復習する。 ①血圧・脈拍の測定 ②形態測定 ③ROM(上肢・下肢・体幹) ③ROM(上肢・下肢・体幹) ・対象者への検査・測定を臨床での状況を想定して、より高いレベルで実施できるように技術の習熟度を高める。 ・各検査の確認の実技テストを担当教員が実施する。
テキスト 参考書	標準理学療法学　専門分野　理学療法評価学
評価の方法	・実技テスト ※上記に記載した検査の全てにおいて合格する必要がある。
授業の形式 受講上の注意	実技形式

理学療法学科　2年

授業科目名	基礎運動療法Ⅱ
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期　　2単位　　60時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	基礎運動療法Ⅱ
担当講師	中村　めぐみ
実務経験	☑ 有　　□ 無　　《　関連資格　理学療法士　》
授業の目的	方向目標 理学療法検査・評価に基づいて、科学的根拠に基づいた（エビデンスのある）理学療法が実施できる 到達目標 ・運動療法の種類やそれぞれの方法、目的を理解する ・機能障害に対して根拠ある治療プログラムが立案できる ・運動療法を実際に実施するための技術を身につける
授業の概要	・関節可動域制限に対する運動療法 関節可動域運動の種類と目的、その制限因子 関節可動域運動の方法 ・筋力低下に対する運動療法 筋力に影響する力学的・生理学的要因 筋力増強運動を行うために必要な基礎知識 OKC・CKCの概念と特性 ・持久力低下に対する運動療法 エネルギー供給系の視点での持久力の概念 運動により持久力が向上する仕組み、廃用により持久力が低下する仕組み ・提示症例に対し、治療プログラムの立案・実施
テキスト 参考書	PT標準理学療法学専門分野　運動療法学総論　第5版　医学書院 その他適宜必要文献
評価の方法	定期試験（筆記）
授業の形式 受講上の注意	座学・実技形式

理学療法学科２年

授業科目名	物理療法学 II
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期　１単位　30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	物理療法学 II
担当講師	橋本　宜昭
実務経験	☑ 有　　☐ 無　　《　関連資格　理学療法士　》
授業の目的	方向目標 物理的エネルギー（熱・水・光線・電気・機械刺激等）が様々な病態に対して有効に作用する生理学的根拠を理解する 到達目標 ・各疾患の病態をふまえて、適応と禁忌を説明できる ・各治療法の原理を含めた特性を学び、機器の取り扱いができる ・実習から得られた結果について、生理学的作用をふまえて考えを記載できる
授業の概要	１．超短波・極超短波療法、超音波療法（講義） ２．電気的刺激療法（講義） ３．実習①　準備 ４．実習①　実施 ５．実習②　準備　　実習①レポート提出 ６．実習②　実施 ７．実習③　準備　　実習①レポート返却、実習②レポート提出 ８．実習③　実施 ９．実習④　準備　　実習②レポート返却、実習③レポート提出 10．実習④　実施 11．光線療法（講義）実習③レポート返却、実習④レポート提出 12．水治療法　　実習④レポート返却 13．まとめ 14．症例検討① 15．症例検討② 実習 ・干渉波 ・SSP ・極超短波 ・超音波療法 疾患・病態の理解と物理療法 ・疾患を提示し、その疾患と病態を理解し、適応となる物理療法とその効果について検討する。
テキスト 参考書	物理療法学　医学書院
評価の方法	レポート課題
授業の形式 受講上の注意	実習時は身体各部を露出できる服装で参加すること

理学療法学科２年

授業科目名	義肢装具学Ⅱ
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期　１単位　30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	義肢装具学Ⅱ
担当講師	藤村　忠史
実務経験	☑ 有　　□ 無　　《　関連資格　理学療法士　》
授業の目的	装具に関して理学療法士・作業療法士に必要な知識を習得する 疾患や障害に応じて最も適切な装具を適合させる知識を習得する
授業の概要	以下の流れで講義を進めていく。 ①　装具学総論 ②　下肢装具の構成部品とそのチェックアウト ③　足継手の制御機構 ④　疾患別の装具療法；脳卒中片麻痺 ⑤　疾患別の装具療法：対麻痺の装具 ⑥　疾患別の装具療法：整形外科的装具 ⑦　疾患別の装具療法：頸椎疾患・胸腰椎疾患の装具 ⑧　疾患別の装具療法：末梢神経障害の装具 ⑨　疾患別の装具療法： ⑩　疾患別の装具療法： ⑪　疾患別の装具療法： ⑫　靴型装具 ⑬　車いす・杖・義肢装具の給付制度 ⑭　装具装着時の動作分析（歩行）
テキスト 参考書	PTOT ビジュアルテキスト　義肢装具学　高田治実　羊土社 レジュメ
評価の方法	期末試験
授業の形式 受講上の注意	座学形式による講義

理学療法学科２年

授業科目名	神経障害系Ⅱ
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期　１単位　30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	神経障害系Ⅱ
担当講師	小林　憲人
実務経験	☑ 有　　□ 無　　《　関連資格　理学療法士　》
授業の目的	脳血管障害患者へ評価から治療までの一連の流れを理解する。 ・評価内容を理解し適切に実施できる。（実技） ・評価内容から脳血管障害患者の症状を解釈し説明できる。 ・評価結果から統合と解釈し問題点を抽出できる。（レポート）
授業の概要	授業の概略構成 ①脳血管障害後片麻痺に対する評価１ ・片麻痺患者の機能レベルにおける評価の目的を理解・復習する ・評価の内容から、症状を解釈できるようになる。 ②脳血管障害後片麻痺に対する評価２ ・片麻痺患者の能力レベルにおける評価の目的を理解する。 ・機能・能力レベルの関係性を理解し、解釈・説明できる・ ③片麻痺患者の評価か統合と解釈 ・評価から治療プログラム立案の過程を理解する。 ・評価の方法・問題点の抽出し解釈出来る。 ④片麻痺患者のトレーニング ・座位、立位・歩行について考察・実技 ・動作の特徴と分類について理解する。 ⑤片麻痺患者の症例レポート作成
テキスト 参考書	脳卒中　基礎から最新リハビリテーション　医歯薬出版 ベッドサイドの神経の診かた　南山堂
評価の方法	筆記試験・レポート
授業の形式 受講上の注意	座学形式・実技

理学療法学科２年

授業科目名	神経障害系Ⅲ
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期　１単位　30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	神経障害系Ⅲ
担当講師	西口　皓喜
実務経験	☑ 有　　□ 無　　《　関連資格　理学療法士　》
授業の目的	理学療法士としての専門性を構築し、現段階におけるスタンダードを学び、卒前教育の水準を確保する。
授業の概要	①パーキンソン病の運動療法 ② ③小脳性運動失調 ④ ⑤脳外傷の運動療法 ⑥ ⑦脊髄小脳変性症 ⑧ ⑨筋萎縮性側索硬化症 ⑩ ⑪多発性硬化症 ⑫ ⑬ギランバレー症候群 ⑭筋ジストロフィー
テキスト 参考書	神経理学療法学　第３版　医学書院
評価の方法	筆記試験
授業の形式 受講上の注意	座学及び実技

理学療法学科２年

授業科目名	骨関節疾患系Ⅱ
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期　２単位　60 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	骨関節疾患系Ⅱ
担当講師	橋本　宜昭、中村　めぐみ
実務経験	☑ 有　　□ 無　　《　関連資格　理学療法士　》
授業の目的	方向目標 　骨関節疾患を有する対象者に理学療法を実施できる能力を身につける 到達目標 ・各疾患について説明できる ・処方箋の情報から評価を実施し、問題点を抽出できる ・病態を踏まえて、治療プログラムを立案できる ・リスクを管理しながら治療プログラムを実施できる
授業の概要	講義 ● 組織の修復期間 症例提示 ● 疾患の理解と評価計画 ● 評価結果から問題点を抽出 ● 治療プログラムの立案・実施 提示疾患 ● 大腿骨頸部骨折（人工骨頭置換術など） ● 変形性股関節症（人工股関節全置換術など） ● 変形性膝関節症（人工膝関節全置換術など） ● 脊椎圧迫骨折 ● 橈骨遠位端骨折 ● 脊髄損傷 ● 腰部疾患（腰椎椎間板ヘルニアなど） ● 頚部疾患（頚椎椎間板ヘルニアなど） ● 足関節、足部の障害
テキスト 参考書	標準理学療法学　専門分野　骨関節理学療法学　医学書院 その他適宜必要文献
評価の方法	筆記試験
授業の形式 受講上の注意	座学・実技形式

理学療法学科２年

授業科目名	内部障害系
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期　１単位　30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

担当講師	森澤　文博
実務経験	☑ 有　　□ 無　　《　　関連資格　理学療法士　　》
授業の目的	方向目標 ➢　近年増加率が多い、内部障害と理学療法の役割を理解する 到達目標 ➢　リスク管理能力を身につける ➢　呼吸器疾患の病態像から理学療法を結びつける
授業の概要	１　呼吸器疾患の理学療法 １−１呼吸器について １−２呼吸器疾患の病態 １−３検査データの捉え方 １−４呼吸器疾患の分類 １−５評価方法 １−６プログラム １−６−１コンディショニング １−６−２呼吸練習 １−６−３呼吸介助法 １−６−４胸郭可動域改善 １−６−５排痰法、その他 １−６−６運動療法について １−６−７包括的リハビリテーション ２代謝性疾患について ２−１糖尿病の病態 ２−２評価方法 ２−３プログラム ３　症例検討
テキスト 参考書	内部障害系
評価の方法	筆記試験：100％
授業の形式 受講上の注意	実技・座学形式 実技の服装は実習着または私服とする

理学療法学科　2年

授業科目名	スポーツ理学療法学
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期　1単位　30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	スポーツ理学療法
担当講師	藤村　忠史
実務経験	☑ 有　　□ 無　　《　関連資格　理学療法士　》
授業の目的	スポーツの中で起こる身体への負荷を理解する。またスポーツ障害の発生機序を運動学・解剖学・生理学的側面から理解して、その評価や対処法、予防について考える思考過程を形成する。さらにテーピング・スポーツマッサージ・ストレッチングという手技を会得して、今後の治療に役立てる。
授業の概要	・　講義の進め方 ①前半は座学、後半は実技を中心に講義を進める。 ②グループワークを取りいれる事で、自ら学ぶ意識を高める。 ・　スポーツ理学療法の概論 ①スポーツ外傷・障害の概念 （ACL損傷、半月板損傷、肩関節、肘関節、椎間関節の障害など） ②代表的なスポーツ外傷・障害への対応・予防（グループワーク） ※バスケットボールにおけるACL損傷後の外科的治療と術後理学療法など ③測定・評価 （スポーツにおけるパフォーマンスの評価など） ④ケガが発生した時の対応・救急処置 （RICE、テーピングなど） ⑤テーピングの効果、基本手技 ⑥マッサージの作用、効果、基本手技 ⑦ストレッチのメカニズム、基本手技
テキスト 参考書 準備物	スポーツ理学療法学　競技動作と治療アプローチ
評価の方法	筆記試験
授業の形式 受講上の注意	実技・座学

理学療法学科２年

授業科目名	地域理学療法学
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期　１単位　30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	地域理学療法学
担当講師	小林憲人
実務経験	☑ 有　　☐ 無　　《　関連資格　理学療法士　》
授業の目的	・地域リハビリテーションの概念を理解する。 ・介護保険分野を理解する。 ・在宅理学療法の実施と理解 ・地域の予防活動に参加して高齢者とのコミュニケーションの向上を目指す
授業の概要	1．地域リハビリテーションの総論 ・地域リハの概論 ・地域理学療法の概念 ・協働と連携 2. 地域理学療法の対象・制度 ・地域理学療法の対象者 ・介護保険制度 ・障害者自立支援 ・地域における社会資源 3. 介護保険制度下での理学療法 ・介護保険について 4.高齢者理学療法 ・高齢者の評価について
テキスト 参考書	標準理学療法学
評価の方法	検定試験の合否にて判断する。
授業の形式 受講上の注意	座学形式

理学療法学科２年

授業科目名	評価実習
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期　3 単位　135 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	評価実習
担当講師	評価実習指導者
実習の目的	・評価実習先の業務を理解し、職業人として望ましい態度と行動をとることが出来る。 ・対象者の全体像を把握できる。 ・対象者のニーズ、興味・関心等を加味し、適切な理学療法評価及び理学療法計画の立案が出来る。 ・対象者の評価・他部門との連携が実施できる。 ・必要な記録・報告・連絡・相談を行うことが出来る。 ・管理・運営業務について理解できる。
実習の概要	・下記内容について臨床の現場で実習指導者の指導の下で会得する。 ① 対象者の評価、その記録報告を行う。 ② 検査測定結果をもとに、患者の障害像をイメージする。 ③ 対象患者におこりうるリスクとその管理方法を会得する。 ④ 周囲の人間（患者、スタッフ）と良好なコミュニケーションを持つ。 ⑤ 知らない・わからない事象に対して自ら調べようとする向上心を持つ。 ⑥ 指導に対して受け入れることができ、かつ解決に向けて行動を起こすことができる。 ⑦ 理学療法士として、今後進むべき方向や研究テーマなどを考える。 ・上記内容について実習指導者より指導を受け、出来ない事柄については出来るように努力して会得し、改善すべき点については確実に改善するように心がける。その結果をもとにして指導者より評価される。
テキスト 参考書	適宜必要文献
評価の方法	実習期間中の成績評価は各実習施設の実習指導者が実施し学校に報告する。成績の記入は別紙の「臨床実習成績報告書」を使用する。実習前後の内容を含め、最終成績評価を学校が行う。
実習の形式 実習上の注意	・規定の施設にて実習指導者の指示に従って、理学療法業務に見学・協同参加する。 ・出席すべき日数の 1/3 を超えて欠席した場合は欠席期間の補充実習を行う。